

広島市植物公園

見どころ案内

ミツマタ・コショウノキ (ジンチョウゲ科)

日本庭園奥の湿原では春の訪れを告げるミツマタやコショウノキが咲いています。ミズバショウは葉が出てきました。開花まであと少しです。

ヘレボルス・アトロルベンス

(キンポウゲ科)

クリスマスローズの原種のひとつで、黒っぽい赤のシックな花です。シクラメンの原種コウムやイワヤツデも岩かげのあちらこちらで咲いています。

ハナモモ‘雛遊び’ (バラ科)

広島生まれの品種で、他のハナモモより一足先に一重の淡いピンクの花を咲かせます。となりの関白も咲き始めました。

ゼラニウム展

~4月18日 (展示温室)
多彩な花色と葉の模様が美しいゼラニウムや様々な香りがある香りゼラニウムを展示しています。

トサミズキ (マンサク科)

名前のとおり、高知を中心とした四国地方が原産地。つり鐘状の淡い黄色の花が、鈴なりになって咲いています。

祝！大温室

リニューアルオープン
日本一のバオバブ、植物を間近で見られる空中デッキ、巨大コンニャクの並木など館内を一新しました。一足早く、ジャマイカの桜(ナンヨウザクラ)でお花見を。葉がある楽器に似ていることから、テイキン(提琴)ザクラとも呼ばれています。

早春の花木

黄色い花のサンシュユは別名が「ハルコガネバナ」。ゲンカイツツジのピンク色との競演をお楽しみください。香りの小径ではチヨウセンレンギョウやハナニラなどがきれいです。

カンヒザクラ (バラ科)

沖縄に自生するサクラで、濃いピンクのつりがね状の花が咲き始めました。ソメイヨシノのつぼみも膨らんできています。

マンドレイク (ナス科)

別名マンドラゴラ。引き抜くと悲鳴を上げるという伝説で有名な薬用植物です。冬から春まで薄紫の可憐な花を咲かせ続けています。そろそろ花も終わりです。お早めに。

「草木染の世界」展

~4月5日(展示資料館)
草木を使った染物と染色に利用される植物、染色方法を紹介しします。1階ロビーでは、植物公園42年のあゆみ展も開催中です。

